

《第四報》

セーブ・ザ・チルドレン ハイチ地震緊急支援活動

被災した子どもたちに心のケアを

社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

子ども支援の国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン (SC) は、現在 20 万人に支援を届けることを目指して活動を展開しています。さらに、ハイチが震災から復興するための長期的視野に立ち、子どもたちを支援していきます。



Antonio Bolfo / Getty Images for Save the Children

キャンプで暮らす人々から話しを聞く SC スタッフ

今回の震災で被災した子どもたちとその家族は、今も生活に必要な最低限の水、食糧、医薬品の不足した状態での避難生活を強いられています。さらに、避難生活の環境は悪化しており、子どもたちの生命の危険が懸念されます。SC は、緊急援助として、すでに 40 の衛生用品キット (消毒アルコール、石鹸、タオル、シャンプー、トイレットペーパー、歯ブラシ、歯磨き粉、おむつ、お尻拭き、など) をポルトープランスの病院と 2 つの児童養護施設に、食糧と水を 2000 人に配布しました。さらに、14 の病院とクリニックに医薬品を配給しています。

ハイチは、震災の前から人口の 80% が 1 日 2US ドル未満で生活をしており、4 人に一人の子どもが栄養失調に苦しんでいます。子どもを取り巻く環境は不安定で、下痢、呼吸器感染症、結核など死にいたる病気による幼児と子どもの死亡率が高い国です。地震によって、子どもたちの生命はさらに危険にさらされています。清潔な水が不足している不衛生な環境で、疾病がまん延しやすく、若い被災者たちにとっては致命的な状況です。また、医療施設はいまだに多くの負傷者であふれ、医薬品も医師も不足しています。SC は、もともとあったポルトープランスのほか 3 つの都市にオフィスを構え、被害の大きかった地域での移動クリニックを開設、アメリカから 12 名の医師を派遣します。

こうした状況のなかで、SC は子どもたちの心のケアにも注力し、本日、ポルトープランスに最初のチャイルド・フレンドリー・スペース (CFS) を開設しました。CFS は、避難場所やキャンプで暮らす子どもたちを保護し、安心して遊べる場所を提供すると同時に、震災で受けた経験による心のケアをする場所でもあります。すでに、40 人の子どもたちが登録をしていますが、今後 250 人の子どもたちの受け入れを予定しています。

子どもたちは、正しいケアとサポートによって厳しい試練からも驚異的に立ち直ることができます。CFS は、他の子どもたちと一緒に遊びながら、子どもたちが異常事態から日常を取り戻す助けになることを目指しています。これは、長期的復興支援の最初の一步です。

さらに、今後は、教育支援を展開、家族と離れ離れになった子どもたちのための捜索と再会支援も開始します。

SC は、1978 年よりハイチで活動を行っており、2008 年の 8 月から 9 月にかけて発生したハリケーンによる自然災害の際にも迅速に緊急支援活動を行いました。

■セーブ・ザ・チルドレン

1919 年に設立した子ども支援 NGO。数少ない団体にだけ認められた、国連経済社会理事会 (UN ECOSOC) の NGO 最高資格である総合諮問資格 (General Consultative Status) を取得しています。年間予算は 1,000 億円を超え、現在、世界で 29 カ国のそれぞれ独立した組織が、パートナーを組み、世界最大のネットワークを活かして、120 カ国以上で活動を展開しています。90 年渡る活動は、世界の NGO の代表格として各国政府からもその重要性を認められています。